

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 2 月 10 日
東京電力株式会社

<タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

[処理設備]

- ・H24/1/17 18:42 セシウム吸着装置を起動。18:45 定常流量に到達。
- ・H24/2/2 11:12 第二セシウム吸着装置を起動。11:15 定常流量に到達。

[貯蔵設備]

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・2/7 14:14～2/10 8:21 移送実施 ・2/10 14:43～ 移送実施中
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・2/10 10:00～16:00 移送実施

移送先	移送先の水位状況 (2/10 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 2,744 mm(水位上昇累計:3,961 mm) 2/9 7:00 から 106mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 2,865 mm(水位上昇累計:3,591 mm) 2/9 7:00 から 111 mm 下降

- ・2/10 8:45～16:39 サイトバンカ建屋からプロセス主建屋への移送実施。

トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (2/10 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P.+ 850 mm (2/9 7:00 と同じ)	O.P.+ 2,932 mm (2/9 7:00 から 15 mm 上昇)	O.P.+ 4,322 mm (2/9 7:00 から 18 mm 下降)
2号機	O.P.+ 3,134 mm (2/9 7:00 から 1mm 上昇)	O.P.+ 3,097 mm (2/9 7:00 から 2mm 上昇)	O.P.+ 3,278 mm (2/9 7:00 から 6 mm 上昇)
3号機	O.P.+ 3,072 mm (2/9 7:00 から 20 mm 上昇)	O.P.+ 3,000 mm (2/9 7:00 から 21 mm 上昇)	O.P.+ 3,308 mm (2/9 7:00 から 21 mm 上昇)
4号機	-	O.P.+ 2,978 mm (2/9 7:00 から 17 mm 上昇)	O.P.+ 3,000 mm (2/9 7:00 から 17 mm 上昇)

<放射性物質のモニタリング>

海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約 30m	2/9	8:40	ND	0.07	0.06
福島第一 1～4号機放水口南側約 330m	2/9	8:20	ND	0.03	0.03

その他、福島県沿岸2地点(2/9 採取分)、および沖合2地点(2/8 採取分)における主要3核種(ヨウ素-131、セシウム-134,137)は全てND。なお、福島県沖合5地点は、悪天候のため採取中止。

<使用済燃料プールの冷却> (2/10 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*1	23.5
2号機	循環冷却システム	運転中	12.9
3号機	循環冷却システム	運転中	24.1
4号機	循環冷却システム	運転中	25

*1 システム二次系エアフィンクーラー:停止中

[2号機]・1/19 11:50～ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

[3号機]・1/14 15:18～ 使用済燃料プールの放射性物質除去のため、放射性物質除去装置の運転を開始。

[4号機]・2/10 13:28～15:05 使用済燃料プールへヒドラジン[腐食防止剤]を注入(約2m³)

<原子炉圧力容器への注水・原子炉の状況> (2/10 11:00 時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉圧力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約4.4m ³ /h, 炉心スプレイ系:約2.0m ³ /h)	24.1	24.5	106.7 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約6.5m ³ /h, 炉心スプレイ系:約6.6m ³ /h)	37.6	68.0	110 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約3.0m ³ /h, 炉心スプレイ系:約6.0m ³ /h)	40.7	49.2	101.6 kPaabs

[1号機]・2/10 10:21 原子炉への注水について、注水量の減少が確認されたため、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.7m³/hから 2.0m³/hに調整(給水系からの注水量は 4.5m³/hで継続)。

[2号機]・2/2 以降、原子炉圧力容器底部の温度上昇の傾向が大きくなった2号機について、原子炉への注水量を増加し、温度の傾向を監視していたが、依然 70 前後で高めの値を示している。2/6 2号機原子炉格納容器ガス管理システムから気体をサンプリングした結果、当該システム入口でキセノン 135 は検出限界未満であり再臨界判定基準である1Bq/cm³以下を満足しており、再臨界していないことを確認しているが、急激な冷水の注水により炉内の水密度が高くなり臨界の可能性が高くなることを避けるため、注水の増加操作前の 2/7 0:19～3:20、安全上の措置として念のため原子炉へのホウ酸水注入を実施し、2/7 4:24 炉心スプレイ系からの注水量を約 3.7m³/hから約 6.7m³/hに変更(給水系からの注水量は約 6.8m³/hで継続)。現在は約 68.0 (2/10 11:00 時点)である。引き続き、傾向監視を行う。

[3号機]・2/10 10:05 原子炉への注水について、注水量の減少が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.7m³/hから 3.0m³/hに調整(炉心スプレイ系からの注水量は 6.0m³/hで継続)。

・2/10 9:50～11:24 窒素封入の信頼性向上のため、格納容器側の窒素封入ラインへの流量計追設作業を行っており、この間、同作業に伴い、一時的に窒素封入を停止するも、パラメータに有意な変動は無し。

[4号機][5号機][6号機]・特に変化なし

<その他>

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止のため、5,6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を継続実施中。

・H24/1/11～ 集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)間のトレンチにおける放射性物質を含む水溜まりの発見(H23/12/18)を受け、発電所構内のその他のトレンチ等の点検を開始。

日々の点検結果については別途参考配布資料を参照

・H24/2/8 9:40 頃 協力企業作業員が2号機タービン建屋東側の仮設プールから水がオーバーフローしていることを確認。現場の仮設プールではサブドレン浄化試験のため、ポンプでサブドレン水のくみ上げを行っていたことから、同日 10:15 頃にポンプを停止したことによりオーバーフローはおさまっている。その後、現場調査を実施した結果、現場周辺の排水溝に水が無かったことから排水溝への流れ込みは無く、海への流出は無いと判断。またタンク内の水をサンプリングして核種分析を実施した結果、Cs-134は3.4×10⁻¹Bq/cm³、Cs-137は5.2×10⁻¹Bq/cm³であり、本日サンプリングしたサブドレン水の分析結果と同等であったことから、オーバーフローした水はサブドレン水と判断。なお、タンクからオーバーフローした量は約 16m³と評価。

・H24/2/9 18:30 頃 免震重要棟において、1号機の仮設計器によるデータ監視が不能になっていることを確認。これにより、格納容器雰囲気モニタ、格納容器圧力、ドライウェルHVH温度、原子炉水位等のプラント関連パラメータが欠測となる。その後、1・2号機中央制御室において当該仮設計器に電源を供給する装置のヒューズが切れていること、および本設計器の計器用電源の故障を確認したため、2/10 6:15、当該ヒューズの交換を実施し、格納容器圧力、原子炉水位等のパラメータを除いて1号機の仮設計器により監視可能となる。その後、故障が確認された計器用電源から他の計器用電源への乗せ替え作業を実施したところ、同日 10:55、全てのパラメータを1号機の仮設計器により監視可能となる。なお、1号機の仮設計器によるデータ監視が不能になっている間も、免震重要棟内のウェブカメラ等によって安全上重要なパラメータについては監視出来ており、パラメータに大きな変化はないことを確認できていることから、安全上問題はない。

以上